

『教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）』【国際資源学部】

国際資源学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するため、次のような方針に基づいて教育課程を構成します。

（教育課程編成方針）

1. 少人数教育を基本とし、入学から卒業までの継続性を重視し4年一貫教育を行う。
2. 地球規模の金属・非金属資源、石油・天然ガス資源に関わる資源分野の問題解決能力、国際的に活躍できる実務家・技術者・研究者に必要な知識・技術を修得できる教育を行う。
3. 応用力や創造性を重視した専門教育を行う。
4. 専門知識を応用して資源に関する問題を解決できる能力を養成するカリキュラムを構成する。
5. 野外における実践的な手法と技能を重視した教育を行う。
6. 国際的に通用する論理的思考力と判断力、外国語による表現力とコミュニケーション能力を養成するカリキュラムを構成する。
7. 資源に関する最新情報および最新研究成果収集のために必要な文献講読能力を養成するカリキュラムを構成する。
8. 自然科学と人文科学の両面から資源問題を捉える能力を養成するカリキュラムを構成する。

（学修方法・学修過程）

1年次には、学問の様々な分野について幅広い知識を修得し、広い視野を持って考える能力を身につけることを目的として、教養教育科目群を履修する。また、資源学に関わる基礎的な知識と実験方法の習得のため、基礎教育科目および専門教育科目の各概論を履修する。

2～3年次には、資源政策、資源地球科学、資源開発環境学の各分野の専門性を高めるため、コース専門教育科目を履修し、高度な理論や研究を進めるための方法論などを学修する。また、英語で実施する専門教育科目および「海外資源フィールドワーク」を履修することにより、国際的に通用する論理的な表現力とコミュニケーション能力を習得する。

4年次には、研究室に所属し、3年次までの学修を通じて得た実践的知見をもとに「卒業課題研究」に取り組み、資源をめぐる諸問題を多角的に考察するとともに、主体的に課題を設定し問題解決する能力を養成する。